

人生 100 年時代、働く 60 代男性の 9 割以上が「元気なうちは働きたい」。
仕事は健康維持や生きがいなど人生をより良く生きる手段の一つ。

＜花王 生活者研究センター調べ＞

日本人の平均寿命は男女ともに 80 歳を超え、100 年生きることを想定した「人生 100 年時代」に向けた議論も始まっています。こうした超高齢社会の進行、さらには少子化による労働力人口の減少を背景に、2013 年には 65 歳までの安定した雇用確保が企業に義務付けられ、総務省「労働力調査」（平成 29 年平均）では、すでに男性の就業率は 60 代後半でも 5 割を超えています。

花王株式会社「生活者研究センター」（※1）では、60 歳以降も「働く」という選択肢が一般的になった今、現在働いている 60 代男性たちの仕事への意欲や働き続ける理由などを調査。その結果、50 代までとの働き方や時間の使い方の変化、そして、家族やこれからの人生へのおもいが見えてきました。

【主な調査結果のポイント】

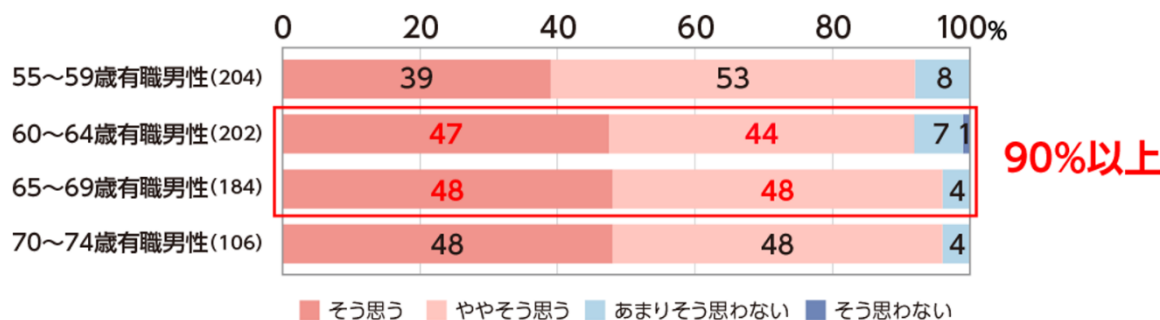
- 働く 60 代男性の 9 割以上が「年齢に関係なく、元気なうちは働きたい」
- 60 代前半では「生活維持のため」、60 代後半では「健康のため」「人との交流」が働く理由
- 仕事は自分のペースで、家族との時間も自分の時間も大切にしていきたい

● **働く 60 代男性の 9 割以上が「年齢に関係なく、元気なうちは働きたい」**

日本老年学会は 2015 年の声明で「最新データでは高齢者の身体機能や知的能力は年々若返る傾向にあり、現在の高齢者は 10～20 年前に比べて 5～10 歳は若返っていると想定される。」と発表しました※。かつて 60 歳は現役引退の節目とされていましたが、現在働いている 60 代男性たちの 9 割以上が「年齢に関係なく、元気なうちは働きたい」と回答しています。60 代後半では 8 割以上が 70 代になっても働きたいと思っていました。

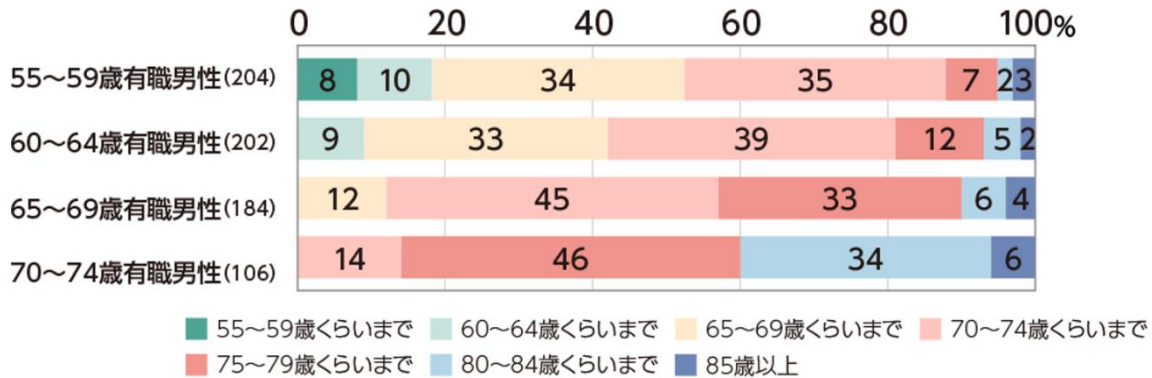
※ 第 29 回日本老年学会総会 シンポジウム 1「高齢者に関する定義の再検討—老年学会・老年医学会 WG の議論をふまえて」（2015 年 6 月）

■ **年齢に関係なく、元気なうちは働きたい**



55～74歳 1都3県在住 今後就労意向のある有職男性 696人
 (花王 生活者研究センター調べ)

■仕事をしたい年齢

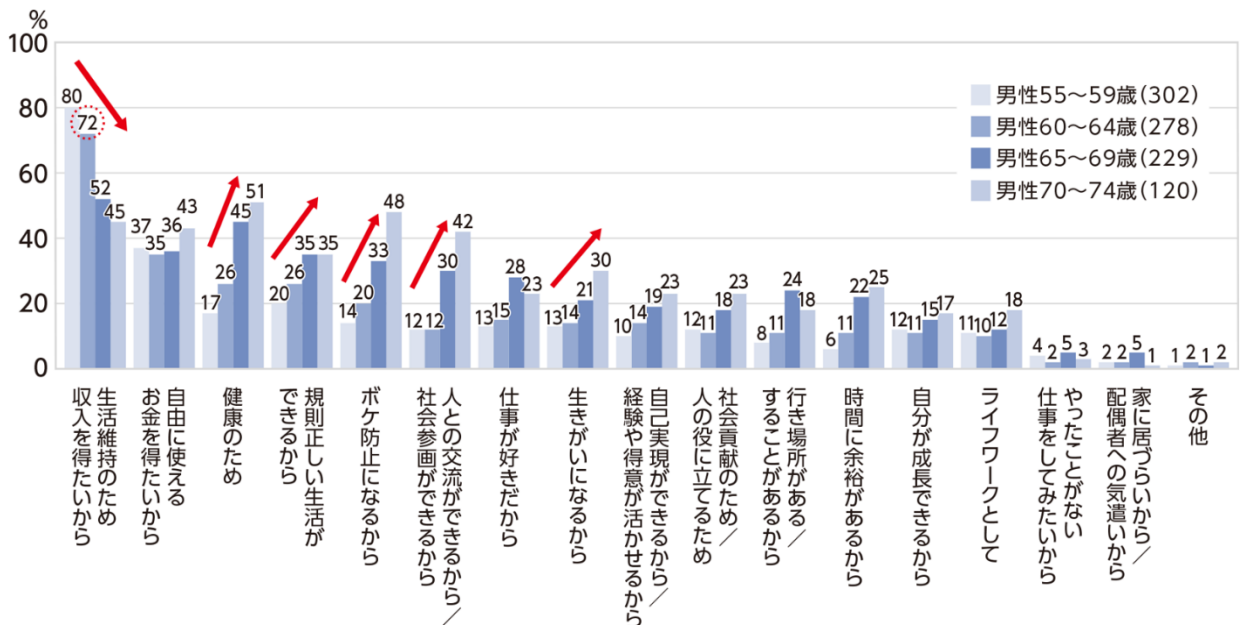


55~74歳 1都3県在住 今後就労意向のある有職男性 696人
(花王 生活者研究センター調べ)

●60代前半では「生活維持のため」、60代後半では「健康のため」「人との交流」が働く理由

働く60代男性たちの「仕事をしている理由」は、60代前半では「生活維持のため」が7割以上と多数ですが、年金支給開始年齢の65歳を境に「健康のため」「規則正しい生活ができる」「人との交流ができる」が増え、「生活維持のため」は約5割に減少しています。年齢とともに教育費や住宅ローンなどの負担が軽くなることも背景にあると思われま

■現在、仕事をしている理由



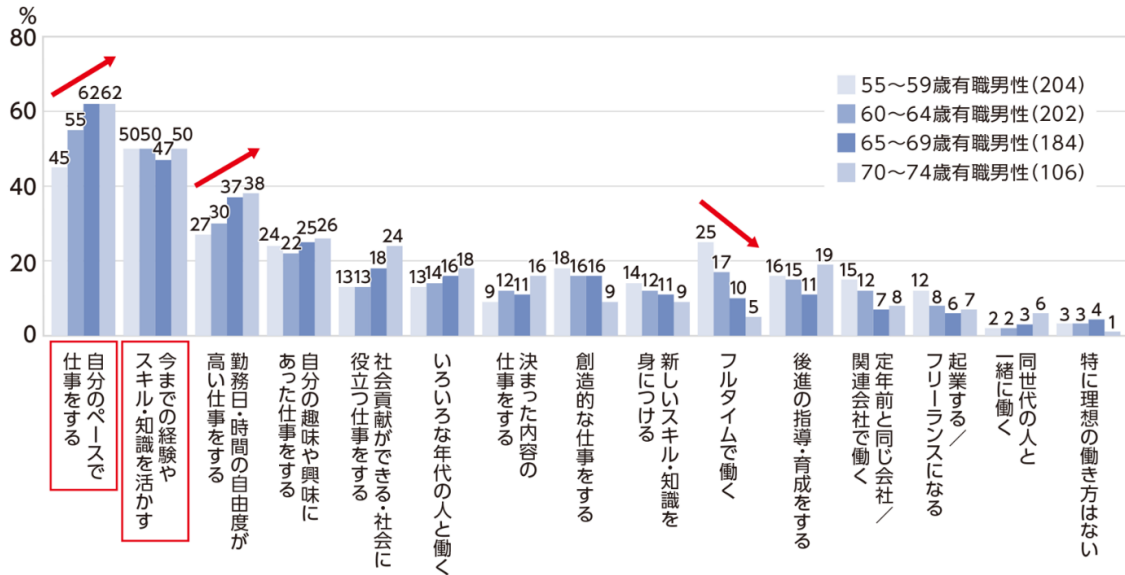
55~74歳 1都3県在住 有職男性 929人
(花王 生活者研究センター調べ)

訪問インタビューでも、収入が年金だけで足りるかなどの不安を持ちつつも、「仕事は生活の糧であると同時に生きがいの一つでもある」など、収入目的以外の仕事への前向きなおもいが聞かれました。働く60代男性たちにとって「働く」ことは、経済的な理由にとどまらず、健康の助けや生きがいとなるなど、今後の人生をより良く生きるための手段の一つとなっているように見受けられます。

● 仕事は自分のペースで、家族との時間も自分の時間も大切にしていきたい

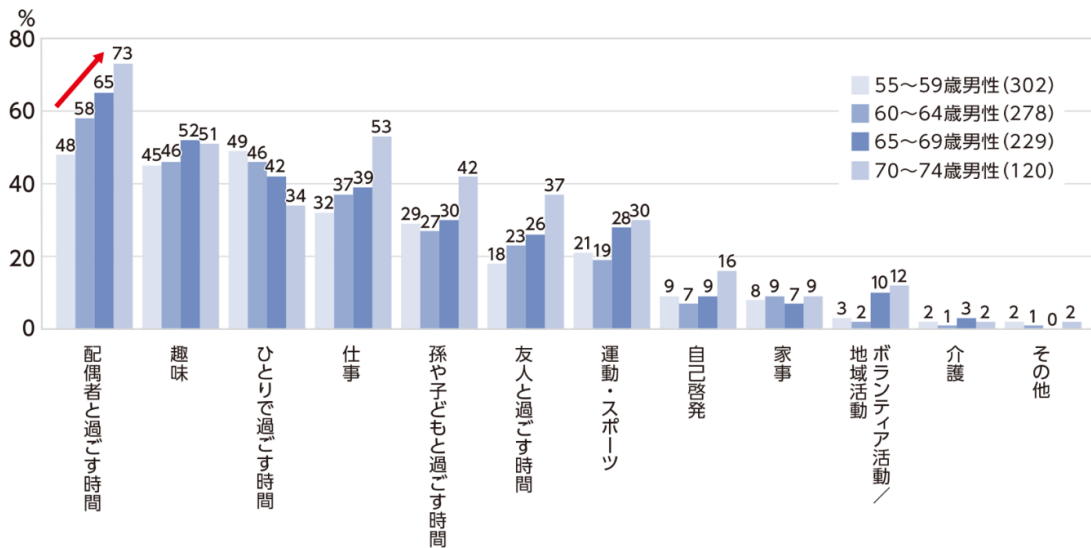
働く 60 代男性たちの理想の働き方は「自分のペースで」が 5 ～ 6 割と高く、「今までの経験やスキルを活かす」が続きます。また、彼らが現在大切にしていることは、「配偶者と過ごす時間」が最も高く、続いて「趣味・友人」「ひとりで過ごす時間」が挙げられました。

■ 今後も働く場合の理想の働き方



55～74歳 1都3県在住 今後就労意向のある有職男性 696人
(花王 生活者研究センター調べ)

■ 現在、大切にしていること



55～74歳 1都3県在住 有職男性 929人
(花王 生活者研究センター調べ)

訪問インタビューからは、60代男性たちは、50代までとは働き方や時間の使い方が変わったことで、「家族」や「自分」に向き合う時間を持てるようになり、これからはその時間を楽しみたいという意見が多く聞かれました。家族や自分のこれからの人生を大切にしたいからこそ、健康の重要性も感じていました。また、身だしなみや外見についても「人と会う時にはきれいにしておきたい」、「若々しく見られたい」「老けて見られたくない」といった、年齢を重ねたがゆえの意識・気配りが見受けられました。

働く60代男性たちのおもいを追っていくと、「働く」ことは目的ではなく、これからをより良く生きていくための手段の一つとなっていることがわかりました。自分が60代になった時、何を生きがいとし、家族や人とどうつながっていたいか、自分の時間をどう使いたいかを、描いておくことが大切だということが彼らの姿から感じられました。人生100年時代が近づきつつある今、「働く」ことも「働かない」ことも含めて、先を見据えて、今後をどう生きていくかが、長い人生をよりこころ豊かに生きていくために大事なようです。

【調査概要】

「働く実態・働く意識・健康意識と行動・生活価値観」

◎2017年9月／インターネット調査／1都3県（埼玉・千葉・神奈川）在住55～74歳男性／1,600人

「シニア男性の働く実態とおもい、暮らしへのおもい」

◎2017年3月／家庭訪問インタビュー／1都3県（埼玉・千葉・神奈川）在住60代有職男性／3人

◎2017年6月／家庭訪問インタビュー／1都3県（埼玉・千葉・神奈川）在住60代有職男性／12人

詳しくは以下URLをご確認ください。

▶ 暮らしの研究「暮らしの現場レポート」

www.kao.co.jp/lifei/life/report-48/

www.kao.co.jp/content/dam/sites/kao/www-kao-co-jp/lifei/report/pdf/48.pdf

（2018年11月掲載）

■ 予防医学研究者に聞いた「人生100年時代、これまでの生き方と何が違うのか？」

「人がよりよく生きるとは何か」をテーマとして、企業や大学と学際的研究を行っている予防医学研究者の石川善樹さんへのインタビュー記事も紹介しています。60代はまだ人生の折り返し地点を少し過ぎたあたり。これから何十年も続く人生をより豊かに生きるために必要なことは？



▶ 暮らしの研究「達人コラム」

www.kao.co.jp/lifei/life/column-47/

※1 花王株式会社「生活者研究センター」 www.kao.co.jp/lifei/about/

「生活者研究センター」では、花王グループの使命である「よきモノづくりを通じて人々の豊かな生活文化へ貢献すること」の実現をめざし、生活者ひとりひとりの暮らしを見つめた生活者研究を行っています。生活現場での観察と対話を重ねながら、行動に表れない本音、説明できないこだわりなど、行動の裏にひそむ「おもい」まで読み解いて、課題を発掘し、商品やコミュニケーション開発に活かすとともに、生活者研究のウェブサイト、花王「暮らしの研究」から、広く社会に発信しています。

花王「暮らしの研究」 www.kao.co.jp/lifei/

■本リリース(MK ニュース)に関するお問い合わせ先



花王株式会社 商品広報部

〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町 1-14-10

www.kao.com/jp/ ©Kao Corporation

※本資料記載の記事・写真の無断転載・複写を禁じます。リンク先は本件掲載時の情報であり、予告なく変更になる場合がございます。